

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成27年7月2日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科 社会健康医学

職 名・学 年 博士課程1回生

氏 名 秋 山 奈 々

助 成 の 種 類	平成27年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	欧州人類遺伝学会 2015年大会		
発 表 題 目	Kyoto Model of developing a human genetics education program in Japan		
開 催 場 所	SECC – Scottish Exhibition and Conference Centre Glasgow, Scotland, United		
渡 航 期 間	平成 27年6月6日 ～ 平成27年6月10日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(写真:ポスター発表の様子)		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助 成 金 の 使 途 内 訳	往復航空券代	197,000 円
		宿泊費	117,000 円
		学会参加費登録料	27,000 円
		国内バス代	3,200 円
		タクシー代	6,000 円
	上計350,200円の内、一部として		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回の発表に伴う出費は助成をいただいた35万円とほぼ同額でした。博士課程の学費を捻出しながらこの金額を自費で賄うことはかなり厳しく、貴財団から助成をいただけたことが本当に有難く、心から感謝申し上げます。特に、遺伝教育の分野を含め競合的な研究費を獲得しにくい分野の研究者に対しては、貴財団の活動は研究を継続していくための大きなサポートになっていると思います。		

2015 年 6 月 6 日から 6 月 10 日の間に、スコットランド、グラスゴーで開催された欧州人類遺伝学会（European Society of Human Genetics : ESHG）2015 年大会に参加いたしましたのでご報告いたします。

欧州人類遺伝学会は 1 年に 1 回開催され、開催地は年度ごとに欧州の都市から選出されます。今回私が参加した 2015 年大会には欧州各国を中心に約 3000 人の、人類遺伝学研究関係者、遺伝医療関係者が集まっていました。

一般講演は全部で 24 セッションに分かれており、口頭・ポスターを合わせて、口頭で約 140 演題、ポスターで約 1400 演題の発表がなされていました。昨年の 10 月に貴財団の社会連携助成の一部から支援をいただき発表を行った、米国人類遺伝学会と比べると演題の数は少なく学会の規模も小さいですが、欧州という土地柄から参加している国は米国人類遺伝学会よりも多く、それぞれの国での取り組みについて情報を得ることができました。

私はポスターセッションの Genetic counselling/Education/Public services（遺伝カウンセリング、教育、遺伝医療サービス）というトピックに登録しました。欧州人類遺伝学会では登録した発表抄録に対して査読が入り、筆頭発表者に対して採用もしくは不採用が通知されます。今回幸いにも抄録が採用され、『Kyoto Model of developing a human genetics education program in Japan』という題目で、これまでに研究の指導をいただいている遺伝医療学教室の和田敬仁先生、一緒に研究を行っている京大病院遺伝子診療部・認定遺伝カウンセラーの鳥嶋雅子さん、そして医療倫理学教室の大学院生と一緒に取り組んできた小学生から一般に対する遺伝教育の取り組み、その教育効果の評価についての発表を行いました。

到着翌日の発表でしたので、現地に向かう前は体調の管理が上手くできるか心配していましたが、程よい緊張感の中で無事に発表を終えることができました。セッションではポルトガルで医学部の学生に対して遺伝教育を行っている研究者の方や、イギリスの National Genetics Education Center の研究員の方からこれまでの取り組みについてコメントやアドバイスをいただき、ディスカッションを行うことができました。特に現在調査を進めている、海外の学校教育における遺伝・ヒト遺伝の取り扱いに関して、これまで情報を集められていなかったポルトガルの現状や教育の様子の情報を得ることができました。日本やイギリスでは国が定めている学習指導要領がオンラインで公表されているため、情報を集めることは難しくありません。しかし、こういったガイドラインに国外からアクセスできない国もあり、学会でのつながりの重要性を改めて感じました。

また日本から参加されていた研究者の方ともポスターセッションを通して意見交換を行うことができ、今後の研究につながる研究データ共有の可能性についても、そのきっかけを得ることができました。

発表を通して、私達の取り組みの特徴である「遺伝医療に携わっている認定遺伝カウンセラーや臨床遺伝専門医が中心となって遺伝教育を行う」という点について他の研究者の方に知っていただき、さらに評価をいただけたことが今回の一番の成果であったと感じています。認定遺伝カウンセラーは日本国内ではまだまだ認知度の低い職種ではありますが、一方で、遺伝情

報に関する技術が発達し、一般の方々がより手軽に遺伝情報や遺伝医療に触れることが可能になってきています。その中で、自分の遺伝情報をどうやって知るか、知った上でどのように活用していくかを考えてもらうきっかけを提供していくことも、認定遺伝カウンセラーの使命の1つだと私は考えこの研究に取り組んできました。今回の欧州人類遺伝学会での発表の経験を通して、今後も遺伝教育の研究、活動を継続しながらその結果を広く社会に還元していきたい、という決意を改めて固くしました。

今回、ヨーロッパ各国から参加者が集う貴重な学会であったことに加え、グラスゴーという歴史ある開催地でしたので、学会参加に対してご支援をいただきましたことを心より感謝しております。ありがとうございました。

